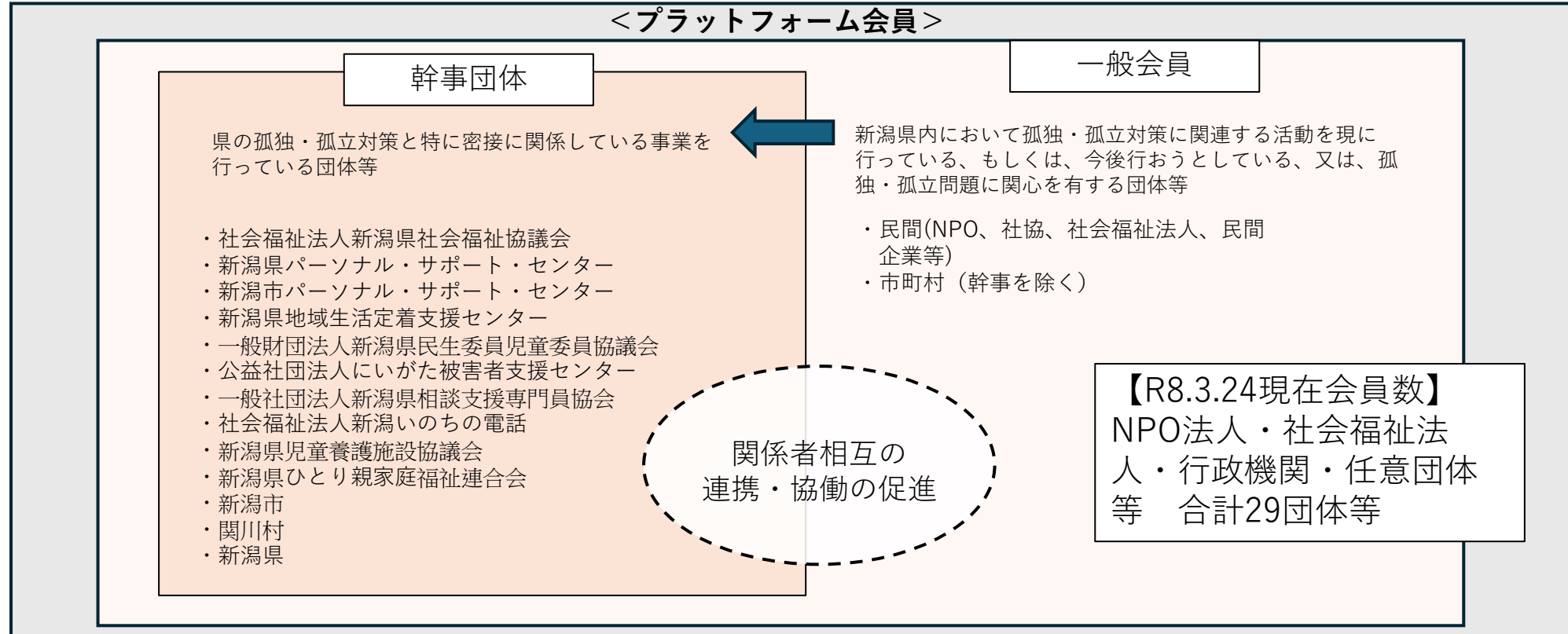


新潟県における 孤独・孤立対策の取組について

1 新潟県孤独・孤立対策官民連携プラットフォームについて（令和8年3月24日制定）



【プラットフォームの機能】

○関係者間で顔の見える関係を構築し、対等に相互につながる「水平的」な連携・協働を促進する。

【具体的な活動】

○幹事会の開催（情報・知見の共有、研修（勉強会）等プラットフォーム活動内容の企画・検討）

○勉強会の開催

○情報発信等（参加団体の相談窓口、イベント等の情報発信、住民への普及発信、情報共有等）

2 新潟県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム立ち上げまでの経緯

令和6年度

令和6年9月6日 新潟県孤独・孤立対策庁内連絡会議設立・開催

国の動向及び県の状況について共有、PFの設立について検討

令和7年3月27日 新潟県孤独・孤立対策庁内担当者会議開催

プラットフォーム設立に向けた検討・意見交換（PF設立イメージ・幹事団体案・スケジュール等について検討）

令和7年度

令和7年9月8日 新潟県孤独・孤立対策庁内連絡会議開催

プラットフォーム設立に向けた最終検討（候補団体・設立スケジュール・活動内容・設置要綱案等について検討）

令和7年9月8日～ 新潟県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム候補団体に内諾依頼

令和7年10月29日～ 新潟県孤独・孤立に関する実態調査実施

内閣府孤独・孤立対策推進室実施の「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」に準ずる質問項目により実施 ▶1月公表

令和7年11月18日 新潟県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム設立準備会開催

孤独・孤立対策に関する情報・知見の共有及びプラットフォーム設立に向けた検討・意見交換（設立スケジュール・設置要綱案・設立記念講演会・活動内容等について検討）

令和8年3月24日 **新潟県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム設立**・設立記念講演会開催

PFを設立するとともに、孤独・孤立対策への理解を深め、機運を高めていくことを目的として、講演会を開催
内閣府孤独・孤立対策推進室孤独・孤立対策推進参与による基調講演及び県内2団体から取組事例を紹介

3 新潟県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム設立記念講演会

○日時：令和8年3月24日（火）

○会場：新潟県自治会館講堂（ライブ配信併用）



基調講演

「孤独・孤立対策とは ～あなたはひとりじゃない～」

【講師】 内閣府孤独・孤立対策推進室

孤独・孤立対策推進参与 大西 連 氏

事例紹介

①「民生委員・児童委員の取組事例について」
一般財団法人新潟県民生委員児童委員協議会
事務局長 渡邊 豊 氏

②「生きづらさを応援するということ ～ひきこもりや社会的
孤立状態にある方への伴走型支援の取組事例について～」
NPO法人新潟ねっと代表理事 村山 賢 氏

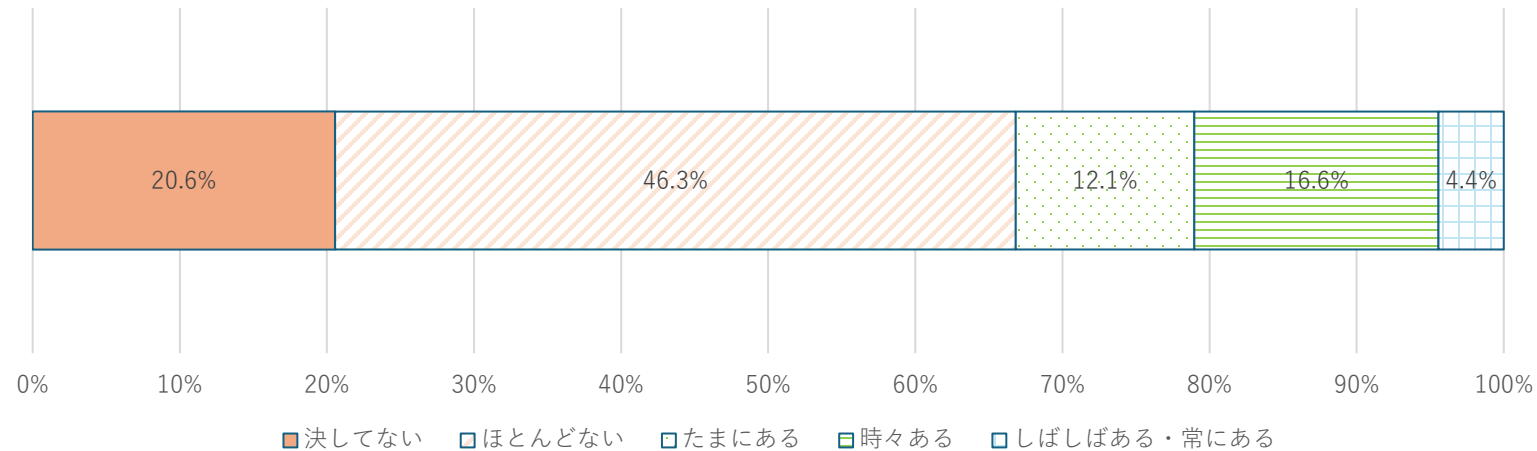
(参考) 新潟県孤独・孤立に関する実態把握調査結果 (抜粋)

- 孤独という主観的な感情をよりの確に把握するため、この調査では「直接質問」・「間接質問」の2種類の設問を採用 (内閣府孤独・孤立対策推進室実施の「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」に準ずる質問項目)

【1】直接質問：孤独感を直接的に問うもの

○問13：あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。

孤独の状況 (直接質問)



孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は4.4% (R6国調査4.3%)、「時々ある」が16.6% (R6国調査15.4%)、「たまにある」が12.1% (R6国調査19.6%)

→合計33.1%が「孤独感がある」と回答 (R6国調査39.3%)

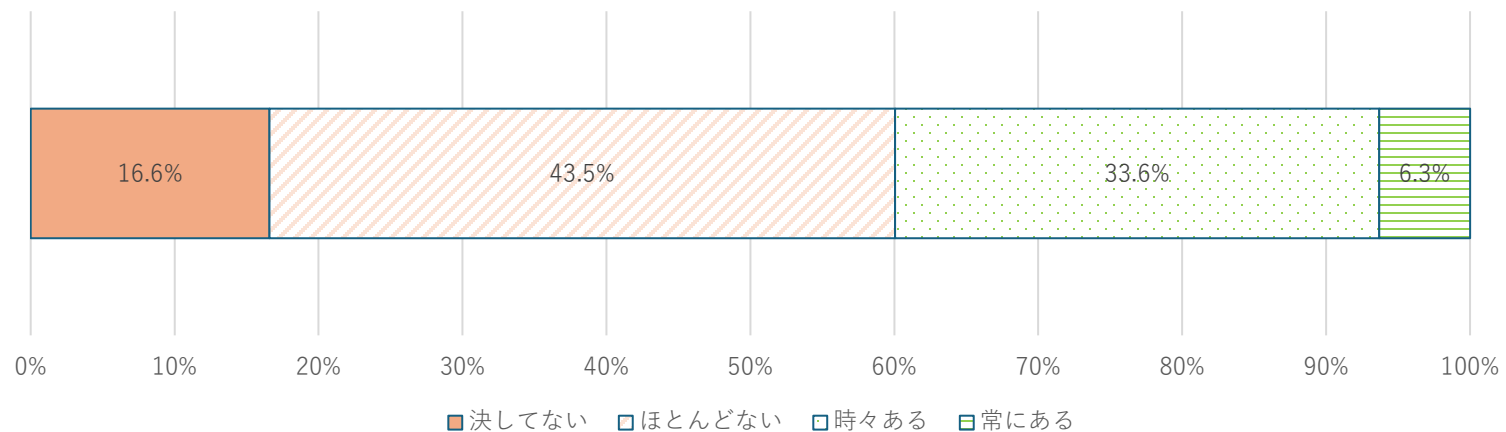
一方で、孤独感が「ほとんどない」と回答した人は46.3% (R6国調査40.6%)、「決してない」が20.6% (R6国調査18.4%)

【2】 間接質問※：問10～問12（「孤独」という言葉を使用しない3つの質問の合計スコアが高いほど、孤独感が高いと評価）

- 問10：あなたは、自分には人とのつきあいが無いと感じることがありますか。
- 問11：あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。
- 問12：あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

※間接質問：カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）のラッセルが、孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値を測定するために考案した「UCLA孤独感尺度」の日本語版3項目短縮版に基づく質問であり、3つの設問への回答を点数化し、その合計スコア（本調査では最低点3点～最高点12点）が高いほど孤独感が高いと評価している。「孤独」という言葉を使用せずに孤独感を把握することから、この調査では「間接質問」と呼称する。

孤独の状況（間接質問）



孤独感が「10点～12点（常にある）」と回答した人の割合は6.3%（R6国調査6.5%）、「7点～9点（時々ある）」が33.6%（R6国調査39.2%）
→合計39.9%が「孤独感がある」と回答（R6国調査約45.7%）

一方で、「4点～6点（ほとんどない）」が43.5%（R6国調査38.0%）、「3点（決してない）」が16.6%（R6国調査14.2%）

▶約3割～4割の人が孤独を感じているという結果（R6国調査4割～5割）

■ 孤独感（直接質問：問13）を年齢階級別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」、「時々ある」と回答した人の割合は、「18歳～39歳」で高い。（R6国調査：孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人は20歳代及び30歳代で高い）

○問13：あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。

